

Injury Alert (傷害速報) 類似事例

ベッドから狭いスペースへの転落で発生した窒息
(No. 70 ベッドガードとベッドとのすき間で発生した窒息の類似事例2)

事例	年齢：0歳6か月 性別：男児 体重：6.7kg 身長：64cm	
傷害の種類	窒息	
原因対象物	成人用ダブルベッドとベッドの脇に積み上げられた毛布	
臨床診断名	低酸素性脳症	
医療費	545,040円	
発生状況	発生場所	自宅の寝室
	周囲の人・状況	屋内には両親がいたが家事をしていて同室にはいなかったため、目撃者はいない
	発生年月日・時刻	2017年6月10日 午後9時50分
	発生時の詳しい様子 と経緯	特に基礎疾患はなく、成長や発達に問題を指摘されたことはない。寝返りは可能であった。 午後9時20分頃に寝室で哺乳後、成人用の柵のないダブルベッド（マットレスから床までの高さ43cm）に一人で仰向けに寝かせられた。ベッドは児の頭側、右側は壁に接するように配置されていた。転落防止のため児の左側に枕が、足側には毛布が隙間なく積み上げてあった。（図1、2）。母が30分後に寝室を訪れ、足側のベッドの縁より転落し、積み上げられた毛布とベッドの間に挟まっているところを発見された（図3）。意識がなく顔色不良であったため医療施設に救急搬送された。
治療経過と予後	救急隊到着時、自発呼吸はあったがチアノーゼを認めたためバッグバルブマスクによる補助換気が行われた。医療施設到着時は、呼吸数40回/分、心拍数180回/分、収縮期血圧68mmHg、酸素飽和度93%、意識レベルは日本昏睡尺度(Japan Coma Scale)でⅢ-100であった。医療施設到着直後にけいれんを認めたためジアゼパムを投与された。また、低血圧性ショックであったため、生理食塩液による輸液負荷（20ml/kg）が行われた。その後30分ほどで、呼吸、循環は安定し意識レベルも改善した。頭部CTや身体所見では頭部やその他の外傷は認めなかった。入院5日後に撮影した頭部MRI検査にて右の視床に信号変化（DWIで高信号、ADC低下）を認めたこと、また臨床経過から、低酸素脳症の診断に至った。なお入院3日後に行った脳波検査では異常を認めなかった。その後遅発性の脳浮腫や陰圧性肺水腫は認めず、6月17日に後遺症なく退院した。	



図1 事故当時の状況を再現
ベッドは児の頭側、右側は壁に接するように配置してあり、転落防止のため児の左側に枕が置かれていた。



図2 事故当時の状況を再現
ベッドと児の足側の壁の距離は56 cmで、隙間なく毛布が積み上げられていた。



図3 発見時の状況
積み上げられた毛布とベッドの間に挟まっているところを発見された。